

管楽器リペア科 取材レポート！

～金管楽器の授業編～



何を学ぶの？

教材楽器はどんな楽器？



トランペット



トロンボーン



ホルン

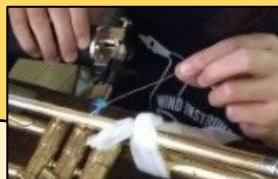
金管楽器は文字通り金属でできている楽器です。1年生では、上記の3種類だけでなく全ての金管楽器に応用される**基礎の作業**を学んでいきます。今回は、特に時間をかけて勉強している2つの作業をご紹介します！！実習は、「正しい持ち方」から「メンテナンスの仕方」などから**段階的にマスター**していくので、金管楽器奏者でなくても大丈夫です！！

溶接【ようせつ】

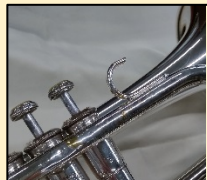
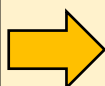
取れてしまった部品同士をくっつけるために、
『はんだ付け』や『ろう付け』の実習をします。



トランペットの本体と取れてしまった部品（指掛け）をバーナーで加熱し、はんだを流してくっつけます。加熱した部分は200℃にもなります！**瞬き厳禁の、大胆かつ繊細な作業が必要**になります。



BEFORE



AFTER

凹出し【へこだし】

楽器がへこんだり潰れたりしてしまったときに、
その傷を修復する実習をします。

へこんでしまったトランペットのベルを芯金という固い金属の棒に押し当て、へこみを出しています。場合によってはハンマーで叩きながらベルの形を整えていきます。**気力と体力、絶妙なコントロールを必要とする作業**です。



BEFORE



AFTER

先生のご紹介コ～ナ～♪



岩井恭司先生

授業のことや将来のこと、私生活の中の悩みなど、じっくりと親身になって相談に乗ってくれるとても優しい先生です。



篠原慶丞先生

楽器の歴史を学ぶ「管楽器学」という授業も担当し、管楽器の技術はもちろん、幅広い知識を持った先生です。

授業Q & A！学生や先生方に聞いてみました！

実習の雰囲気は？

苦手な作業があれば、得意な友達や先生に気軽に相談できる和気あいあいとした雰囲気もあり、技術に集中できる環境です。

授業で学んだことや、成長できた事は？

できなくて涙を流す時もあるけど、周りには一緒に頑張ろうと言ってくれる仲間がいるので、次の日には『今日こそやるぞ！』と意気込んで登校したくなります。コミュニケーションを取り、協力していく大切さを学びました。さらに、『失敗を恐れずやってみよう！』『試行錯誤しながらチャレンジしよう！』という積極性や自分で考える力が身につけてきました。

金管楽器の修理の醍醐味は？

岩井先生「木管楽器の修理と比べ、結果が目に見えて分かりやすいので達成感があるところです。」

篠原先生「感覚的に見えて論理的な作業なので、突き詰めていくことができるところです。」

学生の成長した点は？

岩井先生「当たり前のことを当たり前でできるようになり、技術以外の社会人基礎力も身につけています。」

篠原先生「自分の意見を持ち、伝えることができるようになり、主体的に行動できるようになっています。」

学んだこと・発見したこと

インタビューをして、「知識」と「技術」の大切さを再確認しました。それ以外にも、「忍耐力」や「協働」の必要性も感じることができました。技術者として社会人としての成長を徐々に感じるすることができます。

